

2022年3月期 第2四半期決算 説明資料

2021年11月12日

夢 素 材 カ ン パ ニ ー



チタン工業株式会社

Titan Kogyo ,Ltd.

<http://www.titankogyo.co.jp>

2022年3月期 第2四半期連結決算

2022年3月期 第2四半期連結決算

連結対象会社

項目	2021年3月期 第2四半期末 ①	2022年3月期 第2四半期末 ②	差 異 ② - ①	対象の社名
連結 子会社数	2社	2社	0社	・株式会社TBM ・TKサービス株式会社
持分法 適用会社数	1社	1社	0社	・山東三盛鈦工業有限公司
合 計	3社	3社	0社	—

2022年3月期 第2四半期連結決算

業 績

【売上高】

売上高は、一部製品の出荷が好調に推移したことや、製品の需要が回復したことなどにより、前年同期を上回る3,757百万円(前年同期比38.1%増)となりました。

【営業利益】

営業利益は、売上高の増加及び設備稼働率の上昇などにより、223百万円(前年同期は営業損失78百万円)となりました。

単位:百万円

科 目	2021年3月期 第2四半期 ①	2022年3月期 第2四半期 ②	差 異 ② - ①	増減率 (%)
売上高	2,722	3,757	1,035	38.1
営業利益	△78	223	301	—
経常利益	△120	156	277	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△129	118	247	—

2022年3月期 第2四半期連結決算

セグメント別 売上高／営業利益 (1)

単位：百万円

【酸化チタン関連事業】
UVカット化粧品向け及びトナー外添剤向け製品の需要が回復したことや、リチウムイオン二次電池向け製品の出荷が好調に推移したことなどにより、売上高が増加しました。
損益面では、売上高の増加及び設備稼働率の上昇などにより、営業利益が増加しました。

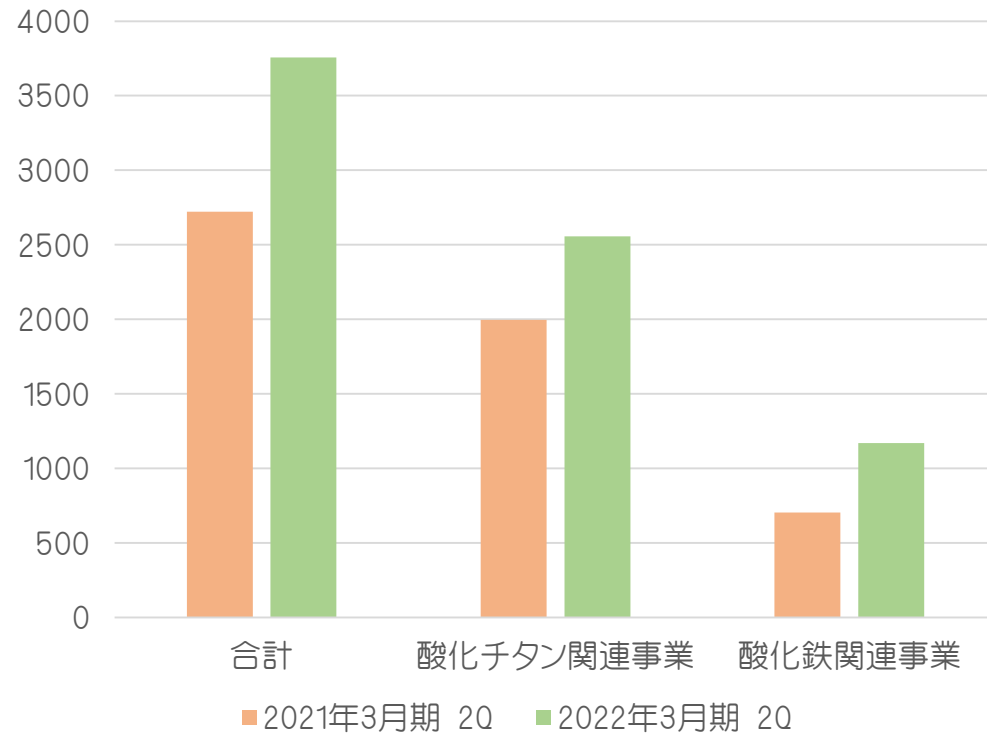
【酸化鉄関連事業】
トナー向け新製品の出荷が好調に推移したことや、汎用品向け及び化粧品向け製品の需要が回復したことなどにより、売上高が増加しました。
損益面では、主要原燃料価格の高騰などの影響を受け、営業損失となりました。

	セグメント	2021年3月期 第2四半期 ①	2022年3月期 第2四半期 ②	差 異 ② - ①
売上高	酸化チタン関連事業	1,997	2,557	560
	酸化鉄関連事業	704	1,169	465
	その他	83	93	10
	調整額	△63	△61	2
	合 計	2,722	3,757	1,035
営業利益	酸化チタン関連事業	71	235	164
	酸化鉄関連事業	△160	△32	128
	その他	5	15	10
	調整額	5	4	△1
	合 計	△78	223	301

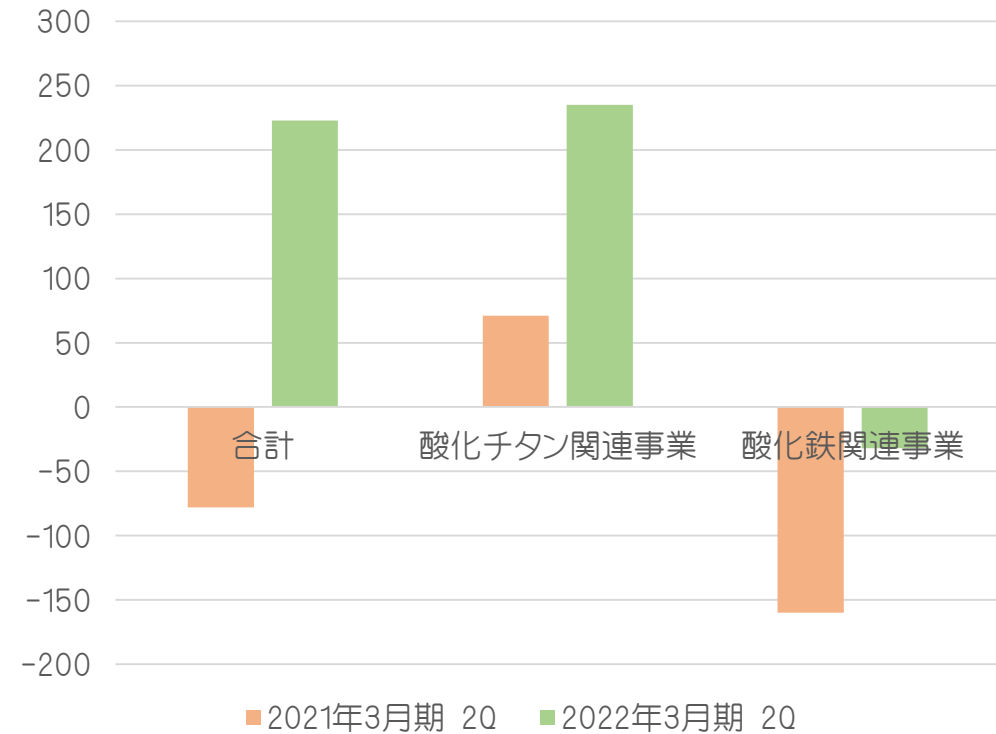
2022年3月期 第2四半期連結決算 セグメント別 売上高／営業利益 (2)

単位:百万円

売上高



営業利益



2022年3月期 第2四半期連結決算

貸借対照表

資産合計は、商品及び製品の増加などにより、前連結会計年度末に比べ195百万円増加し、15,900百万円となりました。

負債合計は、長期借入金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ62百万円増加し、9,324百万円となりました。

純資産合計は、利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ133百万円増加し、6,575百万円となりました。

単位：百万円

科目	前連結会計 年度末 ①	2022年3月期 第2四半期末 ②	差 異 ② - ①
流動資産	5,907	6,228	321
固定資産	9,797	9,672	△125
資産合計	15,704	15,900	195

科目	前連結会計 年度末 ①	2022年3月期 第2四半期末 ②	差 異 ② - ①
流動負債	7,467	4,143	△3,323
固定負債	1,794	5,180	3,386
負債合計	9,262	9,324	62
株主資本	5,866	5,961	95
その他の包括利益累計額	194	217	22
非支配株主持分	381	397	16
純資産合計	6,442	6,575	133
負債純資産合計	15,704	15,900	195

2022年3月期 第2四半期連結決算

キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

第2四半期末における現金及び現金同等物の残高は、601百万円となりました。

【営業活動によるキャッシュ・フロー】
538百万円(前年同期は△123百万円)

【投資活動によるキャッシュ・フロー】
△3,347百万円(前年同期は△367百万円)

【財務活動によるキャッシュ・フロー】
2,834百万円(前年同期は220百万円)

項目	2021年3月期 第2四半期 ①	2022年3月期 第2四半期 ②	差異 ② - ①
営業活動による キャッシュ・フロー	△123	538	661
投資活動による キャッシュ・フロー	△367	△3,347	△2,980
財務活動による キャッシュ・フロー	220	2,834	2,614
現金及び現金同等物の 四半期末残高	627	601	△26

トピックス

第6次中期経営計画 (2021～2023年度)

1. 経営目標

① 10年先のありたい姿

利益成長しながら持続可能な社会の実現に貢献し、未来に選ばれつづける企業

② 3年間で成し遂げたいこと

短期的には、売上の回復が遅れても利益が出るコスト構造に改革する

3年後には、有事に左右されない強い企業体質の構築を目指す

2. 数値計画 (連結)

項目	計画期間			
	2021年度	2022年度	2023年度	数値目標
売上高 (百万円)	7,820	9,000	9,600	-
営業利益 (百万円)	280	500	860	-
ROS (%)	4	6	9	9
ROE (%)	2	5	8	8
年間配当 (円/株)	10	20	30	-

SDGs活動方針

当社は、持続可能な社会の実現や企業の社会的責任への世界的な関心の高まりを受け、SDGs活動方針を策定しました。

当社グループの事業活動や製品は、エネルギー消費、気候変動、廃棄物の処理、化学物質管理の問題などと密接な関係にあることから、SDGsが注目される以前より、環境や社会への配慮に積極的に取り組んできました。

SDGsに掲げられた課題は、地球温暖化などの気候変動、限られた資源の持続可能な有効活用などの環境問題、経済格差や貧困、女性の活用といった社会問題などがあります。どれも重要な課題であることは認識しておりますが、それが多岐にわたっていることから、まずは当社グループにあったやり方で取りかかることとし、現状の仕事の仕組みの中でできることから手をつけ、走りながら修正しつつ活動を進めていきます。

1. 年間スローガン

SDGsをよく知る。そして、自分たちにできることは何かを考え、できることから実践につなげていく。

2. 活動目標

SDGsと紐付けた環境目標の達成を目指す。

SDGsを意識して自分たちにできることは何かを考える社員を増やす。

3. 環境方針との連携

環境汚染の予防、環境負荷の低減、自然環境保護を経営上の重要課題として取り組みます。



2022年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異

2022年3月期第2四半期連結累計期間の業績については、酸化鉄関連事業のトナー向け新製品の出荷が好調に推移したことや、酸化チタン関連事業のUVカット化粧品向け及びトナー外添剤向け製品並びに酸化鉄関連事業の汎用品向け及び化粧品向け製品の需要が回復したことなどにより、売上高は3,757百万円となり、前回発表予想値を上回りました。また、損益面については、主要原燃料価格の高騰などの影響を受けましたものの、売上高の増加及び設備稼働率の上昇などにより、営業利益は223百万円、経常利益は156百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は118百万円となり、前回発表予想値を上回りました。

単位:百万円

項目	前回発表予想①	実績値②	差異 ② - ①	増減率 (%)
売上高	3,600	3,757	157	4.4
営業利益	90	223	133	147.8
経常利益	20	156	136	680.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	0	118	118	—
1株当たり 四半期純利益	0.00円	39.31円	—	—

2022年3月期 通期連結業績予想の修正

2022年3月期の通期連結業績予想については、第2四半期連結累計期間の実績、直近の業績動向及び主要原燃料価格の高騰の影響などを踏まえて、下表のとおり修正しました。

単位:百万円

項目	前回発表予想①	今回修正予想②	差異 ② - ①	増減率 (%)
売上高	7,820	7,940	120	1.5
営業利益	280	320	40	14.3
経常利益	200	220	20	10.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	110	150	40	36.4
1株当たり 当期純利益	36.53円	49.79円	—	—

プライム市場選択の決定と上場維持基準充足への取り組み

当社は、2021年11月12日開催の取締役会において、東京証券取引所にて2022年4月より適用される新市場区分について、「プライム市場」を選択することを決議しました。

1. 新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一次判定結果
当社は、2021年7月9日付で東京証券取引所より、新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一次判定の結果を受領し、「流通株式数」「流通株式比率」「売買代金」の各項目についてはプライム市場の上場維持基準を充たしている一方で、「流通株式時価総額」については当該基準を充たしていない旨の通知を受けました。
2. プライム市場基準の充足へ向けた取り組み
当社は、上場維持基準に係る経過措置の適用を受けながら、持続的な成長による企業価値向上の実現、コーポレート・ガバナンスの一層の充実及び積極的なIR活動に取り組み、プライム市場の上場維持基準の充足を目指します。
なお、プライム市場の上場維持基準充足に向けた具体的な計画については、2021年12月に東京証券取引所への提出及び開示を予定している「新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書」を通じてお知らせします。

CITE JAPAN 2021 (第10回化粧品産業技術展)

当社は、CITE JAPAN 2021 (第10回化粧品産業技術展)に出展しました。

開催期間	2021年5月19日(水)～21日(金)
開催場所	パシフィコ横浜
主催者Webサイト	https://www.citejapan.info/
出展者情報	チタン工業株式会社(小間番号 : A2-4)

【出展のみどころ】

独自の粒子形状制御技術を生かした微粒子酸化チタン、高透明性微粒子酸化チタン分散体に加え、新規開発したチタン酸カルシウムを紹介しました。また、世界最少レベルの重金属含有量を実現した酸化鉄顔料”TAROX HPグレード”の新色(ブラウン系)を紹介しました。

(当社HPリンク) <http://www.titankogyo.co.jp/randd/citejapan2021/>

参考資料（チタン工業の概要）

会社概要 (2021年3月31日現在)

- 社 名：チタン工業株式会社 (Titan Kogyo ,Ltd.)
- 設 立：1936年6月
- 代 表 者：代表取締役社長執行役員 井上 保雄
- 本 社：〒755-8567
山口県宇部市大字小串1978番地の25
- 資 本 金：34億4千万円
- 従 業 員：連結355名、単体310名
- 事 業 所：宇部工場、東京事務所(販売部)、宇部開発センター
- 関係会社：株式会社TBM、TKサービス株式会社、山東三盛鈦工業有限公司



事業内容

当社はイルメナイト鉱石を原料に超微粒子酸化チタンを製造しています。また、酸化チタンを製造するときに発生する硫酸鉄から、赤色や黄色をはじめ多彩な色に変化を遂げる合成酸化鉄を製造しています。

当社が製造する超微粒子酸化チタンや合成酸化鉄は、化粧品や半導体、塗料、建材など、ごく身近に存在するいろいろな製品に使われています。

連結子会社の株式会社TBMが製造するチタン酸リチウムは、乗り物や産業機器、再生可能エネルギーと連動した大規模蓄電施設などのインフラ設備に活用されるリチウムイオン二次電池に使われています。

企業理念

当社は、「顧客本位・効率経営・社会貢献」を理念に掲げ、人々の暮らしをより豊かにすること、社会に貢献することを目標に企業活動を行っています。



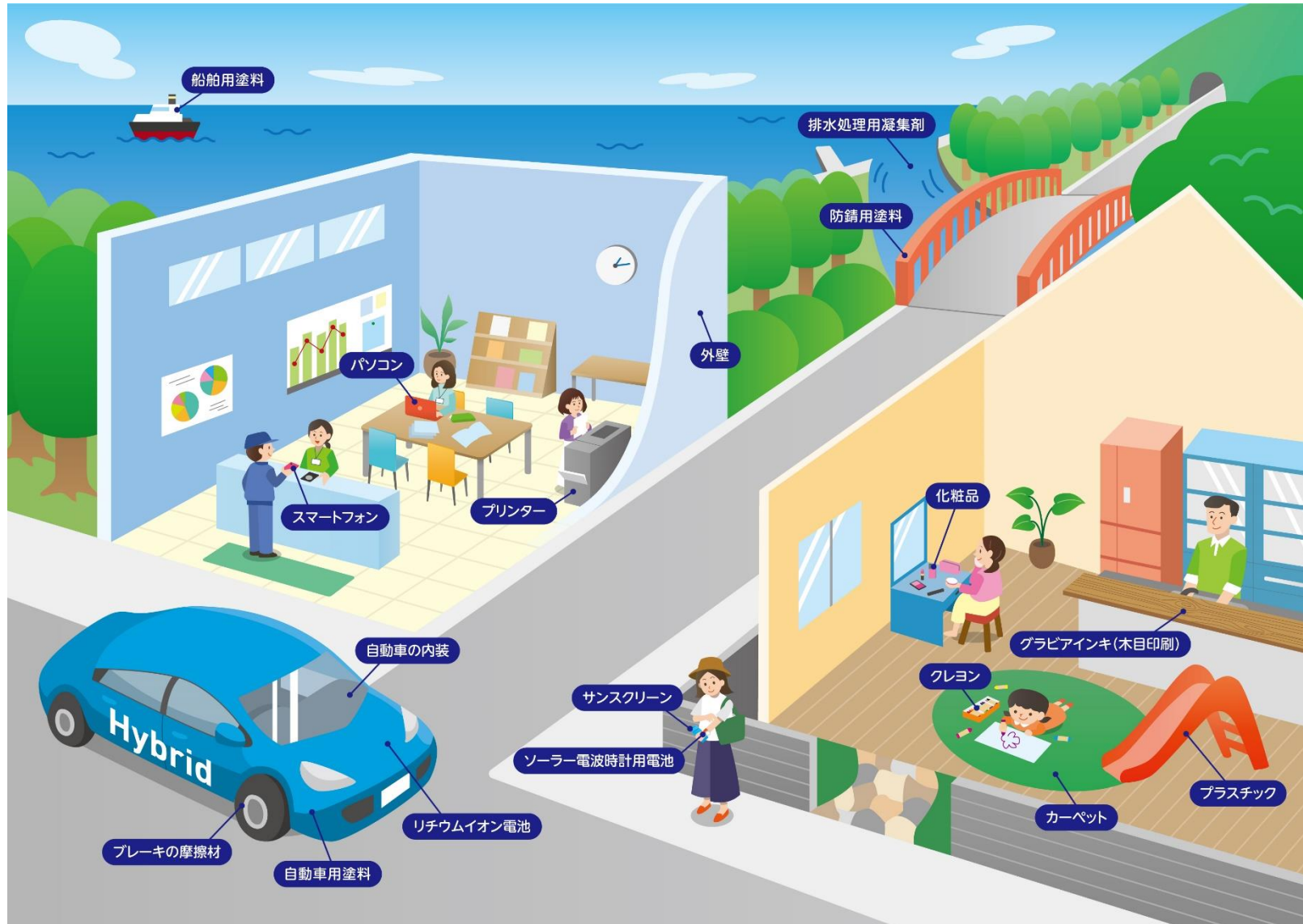
沿革 (1)

- 1936年 6月 酸化チタンの国産化を目的に創立
- 1938年 6月 宇部工場完成
- 1962年 10月 東京証券取引所市場第二部に株式を上場
- 1965年 4月 酸化鉄工場完成
- 1969年 6月 磁性酸化鉄の販売を開始
- 1987年 9月 東京証券取引所市場第一部指定
- 1993年 7月 宇部開発センター新設
- 2004年 5月 中国山東省に山東東佳集团有限公司(中国)及び三井物産株式会社と合併で山東三盛鈦工業有限公司(現 関連会社)を設立
- 2004年 9月 宇部開発センター生産能力増強(ST-2工場の増設)
- 2006年 10月 TKサービス株式会社(現 連結子会社)を設立

沿革(2)

- 2007年 3月 宇部開発センターに分散体工場(ST-3工場)を新設
- 2010年 10月 宇部西工場新設
- 2012年 4月 宇部西工場生産能力増強(TT-2工場の増設)
- 2014年 6月 宇部開発センター生産能力増強(ST-4工場の増設)
- 2018年 10月 宇部開発センター生産能力増強(ST-5工場の増設)
- 2019年 7月 株式会社TBM(現 連結子会社)を設立
- 2019年 10月 株式会社東芝とチタン酸リチウム合併事業を開始
- 2021年 2月 宇部開発センター生産能力増強(ST-6工場の増設)

当社グループ製品の用途紹介





本資料における将来に関する記述につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって見通しと異なる場合があります。